

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | |
|--|-------------------|----------|--|
| 科目名 看護技術論 1ー③（旧） ヘルスアセスメント | 単位数： 1 時間数： 30 | 単位 時間 | 担当講師 岡本 美奈 先生 （実務経験有） |
| 授業目標 1、看護過程におけるヘルスアセスメントの意義がわかり、バイタルサインの測定ができる 2、看護者の視点から対象者の身体的・精神的・社会的側面を統合したアセスメントをするための基本的知識を身につける | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） 1回 ヘルスアセスメントとは 2回 バイタルサインとは 3回 バイタルサイン：体温 4回 バイタルサイン：脈拍・呼吸 5回 バイタルサイン：血圧 6回 バイタルサイン技術演習 7回 バイタルサイン技術演習 8回 系統別アセスメント：呼吸器系 9回 系統別アセスメント：循環器系 10回 系統別アセスメント：消化器系 11回 系統別アセスメント：筋・骨格系 12回 系統別アセスメント：神経系 13回 系統別アセスメント 14回 フィジカルアセスメント技術演習 15回 フィジカルアセスメント技術演習 （実践的な教育内容） 総合病院における病棟勤務と手術室勤務経験に基づき、自らの技術を活かして情報を多角的に集め、患者の健康状態をアセスメントする技術が修得できるように授業を行う。 | | | |
| 受講上の注意： ヘルスアセスメントとは、情報を多角的に集め、患者の現在の健康状態だけでなく、心理・社会的状況視野に入れた査定を行うことによって、患者の個としての存在を認めてその人らしさを求めるものであり、また看護上の問題抽出や看護計画立案・実施につなげるものである。看護にとって、必要不可欠な技術であるので、しっかりと身につけてください。 | | | 評価方法： 筆記試験（60%） 技術試験（30%） レポート（10%） |
| テキスト・参考書 基礎看護技術 1（医学書院）・看護のためのフィジカルアセスメント（インターメディカ） | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|--|------------------------------|----|-------------------------|----|----|-----------------|----|----|-------------------|-------|----|----------|----|----|------------|----|----|----|----|----|------|----|----|-----------------------|----|--------|------------|----|---------|-------|----|---------|------|----|-----|----------|--|
| 科目名 看護技術論Ⅱ－①（旧） | 単位数： 1 時間数： 30 | 単位 時間 | 担当講師 中西 知佐子 先生 （実務経験有） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業目標 <ul style="list-style-type: none"> ・療養生活の環境を構成する要素を理解し、療養環境調整の援助技術を修得する。 ・人にとっての活動と休息の意義・身体の仕組みを理解し、活動制限のある患者に対する援助方法を修得する。また、休息と睡眠に関する援助方法を修得する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1回</td> <td style="width: 75%;">療養生活の環境（環境の概念、環境因子について）</td> <td style="width: 20%;">講義</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>病室の環境のアセスメントと調整</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>ボディメカニクス・ベッドメイキング</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>ベッドメイキング</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>基本的活動の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>体位</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>体位変換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>基本的活動の援助・移動（歩行・移乗・移送）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9回・10回</td> <td>臥床患者のシーツ交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11回・12回</td> <td>演習まとめ</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13回・14回</td> <td>環境整備</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>睡眠・休息の援助</td> <td></td> </tr> </table> <p style="margin-top: 20px;">（実践的な教育内容）</p> <p>総合病院における病棟勤務と特別養護老人ホームでの勤務経験に基づき、療養生活の環境を構成する要素について理解し、療養環境調整の援助技術が修得できるように授業を行う。</p> | | | | 1回 | 療養生活の環境（環境の概念、環境因子について） | 講義 | 2回 | 病室の環境のアセスメントと調整 | 講義 | 3回 | ボディメカニクス・ベッドメイキング | 講義・演習 | 4回 | ベッドメイキング | 演習 | 5回 | 基本的活動の基礎知識 | 講義 | 6回 | 体位 | 演習 | 7回 | 体位変換 | 演習 | 8回 | 基本的活動の援助・移動（歩行・移乗・移送） | 講義 | 9回・10回 | 臥床患者のシーツ交換 | 演習 | 11回・12回 | 演習まとめ | 演習 | 13回・14回 | 環境整備 | 演習 | 15回 | 睡眠・休息の援助 | |
| 1回 | 療養生活の環境（環境の概念、環境因子について） | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2回 | 病室の環境のアセスメントと調整 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3回 | ボディメカニクス・ベッドメイキング | 講義・演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4回 | ベッドメイキング | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5回 | 基本的活動の基礎知識 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6回 | 体位 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7回 | 体位変換 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8回 | 基本的活動の援助・移動（歩行・移乗・移送） | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9回・10回 | 臥床患者のシーツ交換 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11回・12回 | 演習まとめ | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13回・14回 | 環境整備 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15回 | 睡眠・休息の援助 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講上の注意： 環境調整技術は、常に全ての看護学実習で必要となる技術です。対象にとっての安全・安楽な環境調整の技術修得を目指し、主体的に学習をすすめてください。 | | 評価方法： 筆記試験：60％ 技術試験：30％ 演習レポート：10％ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト・参考書 基礎看護技術1 看護がみえる① 臨床看護総論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | |
|--|-------------------|----------|---|
| 科目名 基礎看護技術Ⅲ一①（旧） | 単位数： 1 時間数： 30 | 単位 時間 | 担当講師 藤村澄子先生（実務経験有） |
| 授業目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検体検査における基礎知識と、看護師の役割および援助方法を理解する。 ・ 生体検査における生体への影響と、看護師の役割及び適切な援助方法を理解する。 ・ 薬物療法に関する基礎知識を習得し、看護師の役割と適切な援助方法を理解する。 ・ 注射実施に伴う危険性や法的責任を理解し、安全な注射の実施方法を習得する。 ・ 輸血管理の基礎知識と、援助の実際を理解する | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） | | | |
| 第1回 検体検査①尿検査・便検査・喀痰検査 第2回 検体検査②採血 第3回 生体情報のモニタリング・医療機器の原理と実際 第4回 生体情報のモニタリング（講義・演習） 第5回 生体検査① 第6回 生体検査② 第7回 穿刺・洗浄の介助① 小テスト 第8回 穿刺・洗浄の介助② 第9回 与薬の基礎知識 第10回 経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬 第11回 注射の基礎知識皮内・皮下・筋肉内注射 第12回 静脈内注射 第13回 輸液療法を必要とする患者の看護 小テスト 輸血管理 第14回 筋肉内注射・輸液速度の調節（演習） 第15回 静脈血採血（演習） 小テスト | | | |
| （実践的な教育内容） 大学病院における多くの臨床経験に基づき、検査における基礎知識と看護師の役割を理解し、安全・正確に検査を実施するための援助技術が修得できるように授業を行う。 | | | |
| 受講上の注意： 薬物療法や検査は現代医療の治療・診断に欠かせないものであり、看護活動の中で多くの時間を費やす援助です。 しかし、苦痛を伴うことがあり、その使い方を誤れば生命にもかかわる危険性があります。看護師としての確かな知識と技術を身に付けることができるようしっかり学習しましょう。 | | | 評価方法： 終講試験 70% 小テスト 20% 提出物 10% |
| テキスト・参考書 基礎看護技術Ⅱ、臨床看護総論、看護技術がみえる1・2 | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | |
|---|-------------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 成人看護学方法論 1（旧） | 単位数： 2 時間数： 60 | 単位 時間 | 担当講師 三宅 好樹先生 瀬良垣 香先生（実務経験有） |
| 授業目標 1) 健康障害がある成人の看護援助を、病気の経過に沿った視点から学習する。 2) 健康障害にある対象者の理解に必要な基礎知識と、看護実践に関する理論を学ぶ。 3) 健康障害にある成人の急性期、回復期、慢性期、終末期における身体的、精神的、社会的特徴と、各期に応じた、援助方法を習得する。 4) 各経過別に応じた看護過程の展開が理解できる。 | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） 1回 急性期における看護：九世紀とは急性期の特徴急性期治療の特徴 2回 急性期における身体反応、3回 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 4回 手術療法とは 手術侵襲と生体反応 ムーアの回復過程 創傷治癒過程 5回 急性期にある患者への看護援助、6回 手術侵襲について、7回 周手術期の看護 8回 術後合併症予防の援助、9回～12回 看護過程の展開 13回 リハビリテーション期における患者の看護 特徴・患者のニーズ・看護援助 14回 リハビリテーションを必要とする患者の特徴 患者の看護・家族の特徴 15回 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 16回 安全性体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 17回 慢性期とは 慢性期の特徴 慢性期の患者のニーズ 18回 慢性期にある患者の特徴と看護援助 19回 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護、20～22回 看護過程の展開、 23回 終末期における看護 終末期とは終末期医療の目的・特徴 24回 終末期にある患者への看護援助（心理的プロセス家族への援助） 25・26回 化学療法・放射線治療を受ける対象者への看護、27～30回看護過程の展開 （実践的な教育内容） 特定機能病院における長期間の臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、成人における各経過別看護を理解し、事例を用いての周手術期と慢性期における援助技術が修得できるように授業を行う。 | | | |
| 受講上の注意：成人期は社会の中で中心的な役割を担う時期です。この時期の健康問題が周囲に与える影響は大きいといえます。そこで、成人期にある対象の特性を理解し、あらゆる健康状態に応じた看護を実践するために、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学びましょう。 | | | 評価方法： 筆記試験70%、 提出物および授業態度30% |
| テキスト・参考書 臨床看護総論・基礎看護学④、医学書院 リンダJ・カルペニート＝モイエ著・看護診断ハンドブック第11版 | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | |
|---|---|--|
| 科目名 小児看護学概論（旧） | 単位数： 1 単位 時間数： 15 時間 | 担当講師 杉田 千明先生（実務経験有） |
| 授業目標 小児看護の対象である小児と家族を理解する 小児の成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を理解する。 小児の成長・発達と健康増進のための小児看護について理解を深める。 | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） 第1回 小児の看護の特徴と理念 ・小児看護の対象 ・小児と家族の諸統計 第2回 ・小児看護の変遷 ・小児看護における倫理 ・小児看護の課題 子どもの成長発達 ・成長、発達とは、成長発達の一般的原則 ・成長、発達に影響する因子 ・成長、発達の評価 第3回 子どもの栄養 ・子どもにとっての栄養の意義 ・食育について ・食事摂取基準 ・子どもの栄養 第4回 第5回 新生児・乳児 } 形態的特徴・身体生理的特徴 幼児・学童 } 感覚機能・運動機能・知的機能 思春期・青年期 } コミュニケーション機能・情緒社会的機能 } 各期の養育および看護 第6回 家族の特徴とアセスメント ・子どもにとっての家族とは、家族アセスメント 第7回 子どもと家族を取り巻く社会 ・児童福祉、母子保健、予防接種、学校保健 第8回 小児看護における理論・法律 遊びと教育 （実践的な教育内容） 大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験を積み、小児看護に精通。小児看護の対象である小児と家族について学び、小児の成長過程と健康増進のための小児看護が理解できるように授業を行う。 | | |
| 受講上の注意： 学びを深め確実に知識を習得できるように予習復習をすること | | 評価方法： 終講試験 70% 課題レポート 30% |
| テキスト・参考書 小児看護学総論 医学書院 | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | |
|---|---------|----|---|
| 科目名 | 単位数： 1 | 単位 | 担当講師 |
| 母性看護学概論（旧） | 時間数： 30 | 時間 | 奥野 高子先生（実務経験有） |
| 授業目標 母性とは何か。女性のライフスタイルを通じてその特徴や発達課題・健康問題について学び、母性看護を展開するために必要な基礎知識を習得する。 また、母性看護の対象を取り巻く社会の歴史的変遷、法律や母子保健施策、統計についての知識を習得する。 | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） 第1回 母性看護の基盤となる概念 第2回 母性看護に役立つ概念 第3回 生殖に関する生理 1 1) 生殖器の構造 2) 性周期 3) 第二性徴 第4回 生殖に関する生理 2 1) 妊娠のメカニズム 2) 性行動・性反応 第5回 リプロダクティブヘルスに関する概念 1 <小テスト1> 第6回 リプロダクティブヘルスに関する概念 2 第7回 リプロダクティブヘルスに関する動向 第8回 リプロダクティブヘルスに関する倫理 第9回 リプロダクティブヘルスに関する法律 第10回 リプロダクティブヘルスに関する施策・支標 <小テスト2> 第11回 生殖における健康問題と看護 1 1) 月経異常 2) 性感染症 第12回 生殖における健康問題と看護 2 1) 女性生殖器の腫瘍 第13回 不妊症 第14回 加齢とホルモンの変化 第15回 まとめ (実践的な教育内容) 助産師としての豊富な臨床経験に基づき、女性のライフサイクルの特徴や発達課題について理解し、母性看護を展開するために必要な基礎知識が修得できるように授業を行う。 | | | |
| 受講上の注意： 講義をただ聞いているだけでなく、グループワークや積極的な意見交換を通して、母性看護について深く考える機会にしましょう。 受講前に、母性看護に関連する解剖生理学について復習しておいてください。 | | | 評価方法： 終講試験 70% 小テスト 20% 提出物 10% |
| テキスト・参考書 ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----------|------------------------|-------------|----|--------------------|----|--------------|----|---------------|----------------------|----------|--|-------------|----|------------------------------|------------------------|---------------------|----|-------------------|----|----------------------|----|
| 科目名 在宅看護概論（旧） | 単位数： 1 時間数： 30 | 単位 時間 | 担当講師 福井由紀子先生（実務経験有） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業目標 1. 在宅看護の目的を理解する。 3. 在宅看護に関わる法律・制度を理解する。 2. 在宅看護の対象を理解する。 4. 在宅看護の役割を理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 55%; padding: 5px;">第1回 在宅看護の概念</td> <td style="width: 45%; padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回 在宅看護における看護師の役割</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3回 在宅看護の対象者</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第4・5回 住まい方と健康</td> <td style="padding: 5px;">授業、グループワーク (課題あり)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6・7回 家族</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第8回 在宅療養の支援</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第9・10・11回 在宅看護に関わる法令・制度とその活用</td> <td style="padding: 5px;">授業 グループワーク (小テストあり)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第12・13回 地域における多職種連携</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第14回 在宅看護における権利保障</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第15回 在宅看護論における実習の手引き</td> <td style="padding: 5px;">授業</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 20px;">(実践的な教育内容)</p> <p>総合病院での病棟勤務経験に基づき、地域看護活動における在宅看護の位置づけと在宅看護の目的やその制度が理解できるように授業を行う。</p> | | | | 第1回 在宅看護の概念 | 授業 | 第2回 在宅看護における看護師の役割 | 授業 | 第3回 在宅看護の対象者 | 授業 | 第4・5回 住まい方と健康 | 授業、グループワーク (課題あり) | 第6・7回 家族 | | 第8回 在宅療養の支援 | 授業 | 第9・10・11回 在宅看護に関わる法令・制度とその活用 | 授業 グループワーク (小テストあり) | 第12・13回 地域における多職種連携 | 授業 | 第14回 在宅看護における権利保障 | 授業 | 第15回 在宅看護論における実習の手引き | 授業 |
| 第1回 在宅看護の概念 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 在宅看護における看護師の役割 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 在宅看護の対象者 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4・5回 住まい方と健康 | 授業、グループワーク (課題あり) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6・7回 家族 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 在宅療養の支援 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9・10・11回 在宅看護に関わる法令・制度とその活用 | 授業 グループワーク (小テストあり) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12・13回 地域における多職種連携 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 在宅看護における権利保障 | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 在宅看護論における実習の手引き | 授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講上の注意： 在宅看護の目的と在宅看護における看護師の役割をしっかりと学ぶ。在宅看護のイメージがつくように解らないところは積極的に質問する。 | 評価方法： 終講テスト 80% 課題レポート 10% 小テスト 10% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト・参考書 医学書院（在宅看護論） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

シラバス（授業目標・授業計画）

| | | | |
|---|--|----------|--|
| 科目名 看護研究（旧） | 単位数： 1 時間数： 30 | 単位 時間 | 担当講師 池内嘉代子先生（実務経験有） |
| 授業目標 看護研究の基本的な方法論を学ぶとともに事例研究を行い、実践と理論についての基礎的な知識、方法を学ぶ。 | | | |
| 授業計画（スケジュール・内容等の計画） | | | |
| 第1回 | ガイダンス、看護研究の目的と意義、研究成果の活用 研究疑問（リサーチクエスチョン） 文献レビュー | | 講義 講義 |
| 第2回 | 文献検索の方法と文献カードの作成 パソコンを活用した検索方法 | | |
| 第3回 | 研究目的と概念枠組み、研究デザインと研究方法 | | 講義 |
| 第4回 | 量的研究と質的研究の概要、クリティークについて | | 講義 |
| 第5回 | 研究デザインとデータの収集・分析 | | 講義 |
| 第6回 | 研究デザインとデータの収集・分析 | | |
| 第7回 | 研究デザインとデータの収集・分析 | | グループワーク |
| 第8回 | 研究過程における倫理的問題と研究の倫理指針、研究 | | 講義 |
| 第9回 | 計画書の書き方 | | |
| 第10回 | 研究論文の書き方について | | 講義 |
| 第11回 | ケーススタディの目的と意義、進め方 | | 講義 |
| 第12回 | ケーススタディの進め方 | | 講義 |
| 第13回 | 計画書の書き方、まとめ方と発表1 | | |
| 第14回 | 計画書の書き方、まとめ方と発表2 | | 演習・グループワーク |
| 第15回 | ケーススタディ ガイダンス | | 講義 |
| （実践的な教育内容） 総合病院における病棟勤務に基づき、看護研究の基本的な方法論を理解し、演習を行うことで看護研究の基本的な技術が修得できるように授業を行う。 | | | |
| 受講上の注意： 看護研究の基礎を、授業計画に記した順に学びます。 主に講義形式で行いますが、文献検索についてはケーススタディの仮テーマを基に該当する講義のあとに各自で行います。 | | | 評価方法： 全授業回数の2/3以上の出席と ケーススタディ評価「可」以上、 上記をもって単位認定する |
| テキスト・参考書 看護研究 医学書院 わかりやすいケーススタディの進め方 昭林社 関西看護学生看護研究大会演題収録（1Q月中旬に配布） | | | |